

神野なかんたけ会と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	神野なかんたけ会
日時	平成28年11月18日（金）19時00分から20時00分まで
場所	旧神野小学校
参加者	神野なかんたけ会（上之原昇会長外6名）
	市長、商工観光振興監、石田一彦観光コーディネーター、櫛下吾平総合支所長外

意見交換

- 1 施設の維持管理について
- 2 旧神野小学校の利活用（各種ソフト事業）について
- 3 イベント事業について
- 4 情報発信について

○ 市長あいさつ

市長になって3年弱、神野には何回も訪れ、集落の皆さんと何度も交流させていただいており感謝申し上げます。

神野は魅力が満載の地域である。トレッキングや神野小学校跡地の整備など、行政の支援もあるが、地域の皆さんが主体的に取り組んでおり、このことが何よりも大事である。皆さんが頑張れば、我々はいつでも応援する立場にいる。

今後は、これらの素晴らしい施設に“魂”を吹き込まないといけないと思っており、いろいろな人に活用してもらい、神野のファンになってもらわないといけないが、まずは地元の皆さんが真っ先にファンにならないといけない。その努力が必要になってくる。

正月に子供や孫が帰省すると思うので、正月に1組くらいは校長住宅に泊まったという声を聞きたい。本日は私も泊まるので、神野の良さを楽しみ、いいところだったとPRできればと思っている。

神野のご婦人方にはいつも素晴らしい料理を作ってください、おいしく味わっている。そういう意味では“食”も観光の中で大事な視点となる。素晴らしい食材や調理技術があるので、この食を生かしながら、さらに新しい食材探しにも挑戦し、特産品づくりをしていただきたい。

神野の活性化は今始まったばかりなので、今後、5年、10年掛けて施設の利用を図っていただきたい。行政と地元の皆さんとの連携を図りながら前に進めていきたいと思っている。

○意見交換

上之原： なかんたけ会参加者の紹介

櫛下： 神野地区活性化の概要として①から④の内容を説明

- ①施設の維持管理について
- ②旧神野小学校の利活用（各種ソフト事業）について
- ③イベント事業について
- ④情報発信について

市長： ハード事業だけでなく、今後、ソフト事業をどういった形で進めて行くかが大事な視点となる。

神野の施設を利用していただく方々が、いつも同じネットワークだと代わり映えしないので、住民の皆さんが自分達のネットワークを生かして、人脈を広げていかないといけない。年間に1人の住民が5人連れてくれば、相当な利用者数となる。

阿多： 私はトレッキングコースの整備を担当させていただいた。先日の台風16号襲来後に、コースが荒れていないか、地域住民と総合支所の職員16、7名でコースの確認を行った。コースの整備については、自分達でできることはやっていくが、整備に必要な燃料代とか、1日かけて登ることから、日当的な手当とか、そのような予算を少しでももらえたらと思う。

それから、年が明けてからになると思うが、コースにある色々な珍しい木々に、名札を付けたいと思っている。ボランティアで付けるので、名札の作製費については、行政で準備してもらえるとありがたい。

市長： トレッキングでは、ガイドをいつも付けられないこともあるし、ただ歩くだけでは面白くない場合もあると思うので、木々に名札を付けることはいい考えだと思う。どのくらいの経費がかかるか分からないが、総合支所の予算でどうにか出来たらと思う。

日当については、「あの人はもらったのに」とか、「自分は無償だった」などいろいろな不満が噴出する場合や、各自で行う作業内容が一定でないため、個々にいくら支払うという事がなかなか難しい。重機を使う作業や危険な作業については、業者委託にするのが正規の支払方法である。

皆さんが利用者におもてなしをするときは、無料ではなくて料金を取り財源を確保していく仕組みを作った方がよい。山のガイド料、食の提供などで対価をもらい、活動自体が長続きするような仕組みにする。ここにはそれだけの価値があると私は思っている。そして、帰りには何かお土産を買って帰りたいという心境になるので、ここの特産品を販売する。稼ぐというか、それなりの報酬を受け取るということは大事な事だと思う。

それから、稲尾岳は鹿児島市でツアーを募集すると10分間でうまるので、神野ももっと情報発信をした方がいい。早くホームページを作って情報発信をしてほしい。

多田： 学校のプールには水道水ではなく、既に山から自然水が入るようになっているので、それを活用し、将来的につかみ取り用のニジマスを飼えないかと思っている。

市 長： 鶴羽小でも飼っているの、見に行かれたほうがいい。ここは水もきれいなので、ニジマスもいいがアユでもいいのではないと思う。イワナとかアユとかほかの地域で取り組んでいない魚に挑戦してもらいたいが、試験的にニジマスをやってみるのもいい。水質や水量、水温など、勉強をされて、県の水産試験場にどの魚種が合うのか聞いてみてもいいかもしれない。私の知り合いもいるので、ここを見に来させて、何が合うのか教えてもらってもいいと思う。夏には、ニジマスの塩焼きのイベントができるかもしれない。

支所長： 町内会の活力推進交付金とか水土里推進協議会の補助金などを活用されてみてはどうか。

市 長： 補助金ありきではなく、地元の皆さんが何をやりたいか考えてもらって、その目的に合う補助金を活用してほしいと思う。

市 長： 岩下城を観光資源にできないのか。何も残っていないか。

多 田： 木が茂っていてその形跡が何も無い。

市 長： というのも、先程言ったように、新しい資源探しをした方がいい。ここは山の恵みが豊富なので、たらの芽とか特産品にすれば飛ぶように売れると思う。ぜひ何か資源を探してほしい。

鶴 添： 宿泊の担当をされていて、市長が言われたようにまず地元の方に体験してもらって、PRしていくべきだと感じている。実はまだ地域の方が、布団が入った状況を見ていないので、本日は懇親会の前にでも、地元の皆さんに見てもらいたいと思う。

市 長： 早速、見てもらってほしい。それから、ホームページ等で情報発信をするときは、名前をつけないといけない。名前が校長住宅ではどうかと思う。

支所長： 「なかんたけ庵」という名前が付いている。

市 長： 何人位の宿泊ができるのか。

鶴 添： 6畳が3間あるので結構泊まれる。

市 長： 宿泊料金をとるのであれば条例で決めないといけない。この施設は指定管理になっているのか。

支所長： 現在は普通財産である。料金については、ふれあいセンターの条例の中で使用料を決めることになる。

振興監： 指定管理になれば、普通財産を行政財産に変更して手続きをする必要がある。

市 長： 布団代とか、まずは宿泊料金を決めること。

支所長： あと朝食代とか。

市 長： 朝食は、一般的なものを出さなくてもいいと思っている。あるところで高校生が宿泊した話を聞いたが、朝はお湯とカップラーメンが出てきたようであった。それでも子供たちは喜んだと聞いている。ここには、朝から贅沢なものを食べに来られるという訳ではないと思う。景色、空気、皆さんの愛情をもらいに来るとはないだろうか。

上之原： 調理をできるようにしてもらったが、小学生が使用していたところなので、洗い場が小さかったり、水道栓の向きが悪かったり、換気扇が小さかったりと、使いづらいところがある。改良はできないか。

市 長： 流しは業務用みたいなものじゃないとやりにくいということなので、新しいものでなくても、中古を探したりしてほしい。始めたばかりなので、色々と不具合が出てくると思うが、改善しながらやればよいと思う。

市長総括

最初の話に戻るが、長続きするには稼ぐ力が大事になる。何もかも行政がお金を出すという訳にはいかない。予算をつけるには、議会の承認が必要で、「神野の皆さんが自分たちで稼ぐ努力をしているから、行政としても予算をつけて支援したい」ということであれば承認されやすいと思う。

行政と地域とお互いに努力することが大事である。今から色々なシステムを作っていくうえで、色々な困難があるだろうが、稼ぐ力のある集落であると思うので、神野にしかないものを、ぜひ、開発してほしい。